



島教協

《 すべては「子供たちのために」 》

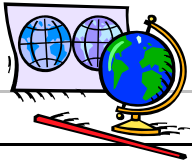
情報

http://
www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 石原康博 編集人 吉田 修 No.619

学びの格差を広げるな！



文部科学省教材費決算額の状況調査

教材費決算額の比較

		19年度	20年度	増減
公立小中学校 1校当たりの 教材費	全国平均	149万円	178万円	29万円増
	島根県	62万円	79万円	17万円増
	全国との差	87万円	99万円	12万円増
	島根県順位	43位	44位	1位後退
公立小中学校 児童生徒一人当たりの 教材費	全国平均	4695円	5516円	821円増
	島根県	3724円	4673円	949円増
	全国との差	971円	843円	△128円減
	島根県順位	24位	25位	1位後退
基準財政需要額に対する 教材費決算額の 比率	全国平均	65.3%	77.5%	12.2ポイント増
	島根県	40.1%	51.2%	11.1ポイント増
	全国との差	25.2ポイント	26.3ポイント	1.1ポイント増
	島根県順位	36位	34位	2位前進

島根県の教材費措置
一学校当たり全国平均より
99万円下回る

【教材費予算措置率】



予算措置率とは基準財政需要額（標準水準の行政を行うために必要な財源）に対する決算額の割合。教材費は昭和60年に義務教育費国庫負担金から外され、一般財源化された。一般財源化されると、国がその使い道に制限や条件付けができない。

文部科学省による教材費決算額（平成20年度）の状況が発表された。それによると、島根県の基準財政需要額に対する教材費決算額の比率は51.2%と半分程度。全国平均よりも26.3ポイントも少ない。金額にすると、公立小中学校一校当たりで99万円もの差である。新学習指導要領実施に向けての移行措置の関係で全国的に教材費の予算措置率は19年度よりも伸びており、島根県も伸びてはいるものの、全国との差はいつそう開いている。

児童生徒一人当たりで比べると全国との差は縮まっているようにも見えるが、少子化、過疎化による児童生徒数減少によるところが大きいと考えられる。

それよりも、学校単位で揃えるべき教材の充実度がなかなか上がらず、このままでは全国の学校に比べあまりにも寂しい状況の中で子ども達が教育を受けざるを得なくなっていくことが大きな問題である。

子ども達の学びの格差がこれ以上広がらないように。島教協は引き続き県に対して強く要望していく。



一月二十三日（土）、出雲市内において、島教協は第五回執行委員会を開催した。事務局長から経過報告と中央情勢報告、人事異動申し入れについて説明が行われた。続いて行われた協議の内容は、来年度活動方針と来年度島教協役員選出などである。

来年度要望していきたいこととしてはたくさんありますが、県、市町村ともに財政難であるので、交渉の際にはこれだけは絶対に、というものに絞った方がよいのではないかと、などの意見が出された。

三月二十日（土）の代表者会では、総括、来年度活動方針等が話し合われる予定である。

西日本フォーラム 参加報告

1月16日(土) 17日(日)の2日間、長崎にしようかんを会場に西日本フォーラムが開催された。島教協からは四絡小学校の田中教諭が参加した。

参加者感想

初日、開会行事の後の講演1では、久保井規文委員長から全日教連の軌跡と今後の展望についての説明があった。教育正常化のために我々がいかに専門職と言われるために、プロの職責を担えるかという課題提起を受けた。その専門性・人間性・心身の健康面の高さを上げていく努力の必要を痛感した。

続いてワークショップを開き、「魅力ある組織活動」をテーマにして問題点と解決法の意見交換をした。終末のプレゼンでは他のグループも同様の問題を抱えていることに思いを深くした。「若い人が少ないこと・役員を担うことの困難・多忙感・研修内容の充実・組織の理解」など、すぐにできることもありそうだが構造的な改革をしなければならぬのかなと思うこともある。ただ、そうしたことに立ち止まり振り返ることができた機会が大切であるとも感じる。人任せでは変わらないことだろう。

夜も、長教協のみなさんの心遣いで、楽しく過ごすことができた。

2日目、講演2の「教育改革における今後の展望」では、教員免許更新制・教員養成課程の見直しについての話が印象深かった。時間・費用・申し込み方法・受講希望人数の偏り・ニーズとのギャップなど、指摘されている課題も多く見直しされるのが早かっただけに、教育改革がめざすものについて我々も声をきちんと出していかなくてはならないと感じる。まとめの中で、これからの時代は、行間を読み、創造することを怠らず、そうした自分で判断し行動する力を持って仕事に当たらなければならぬと強調されたことに深く頷く思いだった。

現地研修では、知の都として日本から早くから開けたこの地の当時の勢いを感じる事ができた。「龍馬伝」の開催もタイムリーで楽しむことができた。



ワークショップ：魅力ある組織活動

開催決定

詳細は、近日発表！！

乞うご期待

谷 和樹 氏による 教育講演会

▼5/23(日) 10:40~12:10

出教協定期総会後

▼ビッグハート出雲 黒のスタジオ



谷 和樹(たに かずき) 兵庫県内の小学校に教諭として22年間勤務。

向山洋一氏を代表とするTOSSで活躍し、TOSS授業技量検定最高位8段を持つ。各地で開かれるセミナーでの切れ味鋭いコメントは、参加者に大好評。現在玉川大学教職大学院准教授。

主な著書 『授業で“学び方技術”をどう育てるかー学年別系統化細案』(明治図書)／『谷和樹の学級経営と仕事術』(明治図書)／『教材研究にこだわる社会科授業の組み立て方』(明治図書)など多数